

Comment

Seroprevalence of *Helicobacter pylori* in Korea: A multicenter, nationwide study conducted in 2015 and 2016

Helicobacter 23: e12463

韓国において血清抗体を用いた *H. pylori* 感染率の多施設全国調査。多数例、かつ国内の各地域を対象とした研究であるだけでなく、1998年、2005年、2011年の過去3回の研究と連続しており、韓国でも継続的かつ熱心に *H. pylori* 研究に取り組んでいることが伺える論文である。

H. pylori 感染率は経時的に低下しており、特に若い年齢層での *H. pylori* 感染率の低下を認めることから、考察でも述べているが、日本と同様に衛生環境の改善が影響していると考えられる。この研究では、経済状況や未就学—学生時代—高校卒業後の都市在住の有無と *H. pylori* 感染率を調査しているが、未就学時に都市部に比べて非都市部に住んでいたほうが *H. pylori* 感染率は高率だが、思ったよりその差は少なかった（都市部：46.7%、非都市部：58.9%）。

日本ではヘリコバクター・ピロリ胃炎が保険診療で除菌が可能となってから6年が経過し、まさに国民総除菌時代に突入しており、昨年には胃癌死の低下が Asaka らのグループにより論文化された。ピロリ胃炎の除菌が一般化していない韓国においては、今後どれくらいの胃癌死が低下してくるかが興味深い。

今後も同韓国グループにより経時的に *H. pylori* 感染率の調査が行われることが望まれる。

（杏林大学医学部総合医療学 徳永 健吾）
